

古賀市

農業委員会 だより

2023.3.20

古賀市農業委員会だより

春号

vol.39



農業委員の軽トラ



令和4年12月18日、農家直売！軽トラ市が開催されました。

おもな内容

- 新規就農者への支援について
- 農業委員会への申請日について
- 古賀の食材こだわりのお店〈あづまや〉
- 古賀の農の匠たち
- レポート(農家直売！軽トラ市)
- ほか

農業委員会活動
農業の担い手の育成・確保

「新規就農者への支援」

古賀市の農業の現状

古賀市では平成27年に419人いた基幹的農業従事者数が令和2年には335人へ減少しており、また経営耕地面積も同じく475ヘクタールから412ヘクタールへと減少しています。

一方、未来の古賀市の農業を支える担い手である40代以下の農業者は、古賀市の基幹的農業従事者数335名のうちわずか43名と1割程度という状況です。

新規就農者の現状

そのような状況の中で近年農外から、また後継者として、新規就農者が増えています。品目としてはイチゴ、ブルーベリー、露地野菜等多岐にわたり、今後の地域を支える存在として意欲をもって農業に取り組んでいます。

今回現地視察をした矢野昌俊さん、奈美さんご夫婦は新規就農3年目でブロッコリー・ナス・スイートコーンなどの露地野菜を作られています。

農業委員会としての支援

当委員会では新規就農者へ農地情報の提供、あっせん等農地確保の相談や、JA粕屋・県・市内の農業者等と連携を図り、品目ごとに必要な農地面積・経費等を算出した経営計画を作成し、中長期的な視点で農業

経営に取り組めるよう支援しています。また、研修機関や市内の農業者と連携し、技術習得に向けた支援を行っています。

当委員会独自の取り組みとして、農家で使用されなくなった農機具を新規就農者等にあっせんする「農機具リユース事業」を行っており、これまでコンバインや田植え機等の無償提供を行い、新規就農者の経済的負担軽減につながるよう取り組んでいます。

新規就農者が農業で生計を立てていく上で将来の生活安定のため、農業者向けの終身年金である農業者年金の加入推進を通じて安心して農業に従事できるよう支援しています。



農業委員会への申請日について

農地の貸し借り、所有権の移転、農地の転用(市街化区域は除く)については農業委員会への申請が必要です。令和5年度毎月農業委員会(原則10日開催)の申請締切日については別表のとおりです。
※市街化区域内の農地転用等の届出、各種証明書の発行については随時受け付けています。

問い合わせ

古賀市農業委員会 ☎092-942-1140

【別表】

定例農業委員会	申請締切日	定例農業委員会	申請締切日
4月	3月24日(金)	10月	9月25日(月)
5月	4月25日(火)	11月	10月25日(水)
6月	5月25日(木)	12月	11月24日(金)
7月	6月23日(金)	1月	12月25日(月)
8月	7月25日(火)	2月	1月25日(木)
9月	8月25日(金)	3月	2月22日(木)

●古賀市産の食材を楽しめるお店を紹介します。

古賀の食材 こだわりのお店⑦



あづまや

約50年前から地元の方などに愛され続けている食堂です。美味しい料理を求めて地元の方はもちろん、休日には市外からもお客さんが訪れます。



古賀市の食材をふんだんに使った料理は、通常メニューだけでなく季節の野菜を使った日替わりメニューもあり、いつ訪れても楽しめます。

最大20名の宴会も受付けており、通常メニューにはない宴会料理も絶品です。
餃子・ホルモン・焼き飯などのテイクアウトも多数取り揃えています。
美味しいご飯と気さくなおかみさんに心もからだもホッと温まるお店です。ぜひお立ち寄りください。



(上)宴会コースの2品、(下)ちゃんぽん

【あづまや】

☎092-946-3040

住所：古賀市米多比1514-13

営業時間：11時～14時 17時～22時

定休日：日曜日

駐車場：有

古賀市産の食材を使用している飲食店様の情報を募集しています。
自薦他薦を問いません。情報を農業委員会事務局にお寄せください。
☎092-942-1140 FAX092-942-3758

古賀市 認定農業者協議会 消費者交流

古賀市認定農業者協議会では、例年市民を対象に消費者交流事業を行っています。今年度は新原区内の畑で市内の保育園や子育て支援団体を対象に、6月にさつまいも苗植え体験を行い、11月にさつまいもじゃがいも掘り体験を行いました。

参加者からは「苗植えの時は大変だったけどがんばりました」「大きなさつまいもやじゃがいもをたくさん掘ることができてとても楽しかった」などの感想がありました。

今後は幅広く市民を対象とした農業体験も企画しており、コロナ禍に負けず地域に根差した農業イベントを行っていきます。



●高い技術力を持ち、古賀市で高品質な農産物の生産に取り組む「農の匠」を紹介します。

「第7回」古賀の農の匠たち



青柳 穰司さん

農業経験：23年
生産物：軟弱野菜

◆農業をはじめたきっかけは？

40歳まで県外で会社員をしていたが、両親の後を継ぐために仕事を辞めて、福岡へ戻り農業をはじめました。

それまで農業の経験はなかったため、初めてのことがばかりで戸惑うことが多かった。

◆大変なことは？

始めてすぐは作業の仕方や肥料の名前など覚えることが多く大変でした。

作り始めていくと肥料のやりすぎで枯れてしまうことや、水やりの調整など新たな課題も出てきましたが、試行錯誤を重ね、20年経つてようやくバランスが分かるようになりました。

また、大雨でビニールハウスの横を流れる川が氾濫し、ビニールハウスの中が水没したこともあり、やはり自然災害には悩まされます。

◆農業のおもしろさは？

農業は自分でやった分だけ成果として現れるのでそこがおもしろい。

会社員の時とは違い休みは少ないですが、次はどんな作物を作ろうか、などいろいろと挑戦する楽しさがあります。

◆こだわっていることは？

安心・安全に食べてもらえるように大切に作っています。

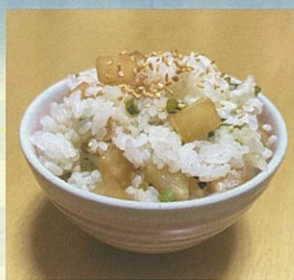
また、毎年青柳小学校の児童を対象とした小松菜の農業体験や、現在はコロナ禍で中断していますが古賀東中学校での「朝勉＆朝弁」という生徒達に自習後の朝ごはんとしておにぎりとお松菜スープをふるまう活動も実施しており、農業を通して地元の方とのつながりを大切にしながら子ども達にも元気になってもらいたいという気持ちをもっています。

◆若い農業者に伝えたいことは？

若い農業者にはたくさんの方の可能性を感じています。人とのつながりを大切に、新しい挑戦をたくさんしてほしいです。



『味付け自慢!』かぶの混ぜご飯



春を感じさせるかぶの混ぜご飯はいかがですか?
おにぎりにして、お花見などのお弁当にもピッタリです!

【材料】(2人分)

かぶ…2個 ごま油…大さじ1/2

しょうゆ…大さじ1/2

A 酒…大さじ1/2

みりん…大さじ2

塩こしょう…少々 ご飯…茶碗2杯分

ごま…適量

【作り方】

- ①かぶの葉は7～8mm幅に切る。かぶは2cm角の角切りにする。
- ②フライパンにごま油を中火で熱し、かぶを入れ中火で炒める。
- ③かぶに火が通ったら、かぶの葉を入れる。しんなりしたらAを混ぜ合わせたものを入れてサッと炒め、塩こしょうで味を調えて火から下ろす。
- ④ボウルにご飯と③を入れて混ぜる。器に盛り、ごまをふる。

●レポート●

農家直売! 軽トラ市

令和4年12月18日(日)に古賀市役所正面駐車場にて開催されました。

地産地消の推進や消費者との交流を通して、古賀の農産物の良さをたくさんの人に知ってもらいたいという思いで始め、11年目となった今回の軽トラ市は、雪が舞う中での開催となり、軽トラ10台、フードコーナー4店舗などの出店がありました。

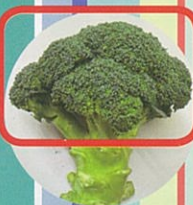
農産物だけでなく、焼きとうもろこしやぜんざいの販売、ブロッコリーとコーンを使ったブロコンスープの試飲会も行われ、寒さの中来場された方々を温めました。

また、古賀竟成館高校によるダンス同好会やチアリーダー部によるステージでは寒さも吹き飛ばす元気なパフォーマンスで会場を盛り上げてくれました。

次回の軽トラ市は7月16日(日)に開催予定です。市内で採れた新鮮な夏野菜などが集まります。ぜひお楽しみに!



古賀産農産物

プレゼント
クイズ³⁹

今回は「ブロッコリー」についてのクイズです。

冬から春先にかけて旬のブロッコリー。古賀市内でもたくさん作られています。私たちが普段食べている赤で囲っている部分は①～③のうちどの部分でしょう?

- ①実
- ②花のつぼみ
- ③葉っぱ

ハガキにクイズの答え・氏名・住所・電話番号・“だより”の感想(いちばんよかった記事など)をご記入のうえご応募ください。正解者の中から抽選で3名に「古賀産農産物」をプレゼント。正解は次号でお知らせします。

【締切】 令和5年4月30日必着

【応募先】 〒811-3192 古賀市駅東1-1-1

古賀市役所 農林振興課内 農業委員会事務局



橋本さん



池末さん



高橋さん

前号の
正解
③

当選おめでとうございます。

古賀市
農業委員会
だより

令和5年3月20日発行

編集/古賀市農業委員会だより編集委員会

編・集・後・記

農業者の高齢化、担い手不足が深刻になる中、新規就農者の方々が

つつあります。農業委員会として新規就農者の支援は将来の古賀市の農業を盛り上げる上でも重要な役割の一つです。今後

等、新規就農者の方々にとって身近な存在でなければと改めて感じました。

(長崎隆児編集委員)